



秋山和慶

聴きどころ

5月定期

春真っ盛りの5月ですが、皆様いかがお過ごしでしょうか。僕はと言えば新婚生活を満喫しております。ところで皆さん、5月と言えばさて何を思い浮かべるでしょう？ゴールデンウィーク？鯉のぼり？？いえいえそうです、合奏団の定期演奏会ですね。ついでに言うと僕の誕生日もあります。

今回の定期演奏会は20回目。僕は2回目から在団しているのですが、早いものです。あの頃は若手と言われていましたが、今ではすっかり……。さて今回の定期演奏会、スペシャルな方が3名もいらっしゃいます。まずは迫昭嘉さん。迫さんと言えば11年前の合奏団結成当初に音楽監督を務めてくださった、合奏団にとっては言わば生みの親。今回はモーツァルト

のピアノ協奏曲第20番のソリストとしてのご登場です。次に現在アーティスティックアドバイザーを務めていただいている合奏団育ての親、松原勝也さん。いつものようにどっしりとコンサートマスターの席に座っていただきます。そしてそして今回はついに！日本音楽界を長年にわたりけん引していらっしゃる巨匠、秋山和慶さん、大村の指揮台に初登場です！！

今回演奏するベートーヴェンの交響曲第8番は、合奏団にとって初挑戦です。9曲ある交響曲の中でも3番「英雄」、5番「運命」、6番「田園」、7番、9番「合唱付き」は殊に革新的な曲です。さてその中であってベートーヴェンの革新性というよりは、なんとなく古典派の雰囲気を感じさせる第8番。まるで9

番を書くため初心に帰ったかのようなのです。この第8番を秋山さんのタクトがどう料理するのか、演奏者として今からワクワクです。

また、個人的に秋山さんには思い出があります。それはまだ僕が学生時代のことでしたが、秋山さんが九州交響楽団の定期演奏会にいらっし

やいました。たまたまエキストラとして出演していた、ブルックナーの交響曲のリハーサルでのこと。同じくエキストラで元N響首席の中博昭先生の横で弾かせていただいていた亀子。中先生が僕に「亀子君、ここは秋山さんがクレッシェンドをかけ続けるようベースに言っているから、最後までかけ続けよう。」僕はあまりピンときませんでしたし

た。なぜなら秋山さんは一言もそんなことをおっしゃってはいなかったからです。ですがその後、秋山さんがコントラバスに「そこは最後までクレッシェンドをかけてください。」とおっしゃったのです。僕は、それはもう感動しました。そうか、一流の音楽家同士は言葉でなくても会話できるのかと。それ以来そのことを心に刻んできた僕。今回のリハーサルで秋山さんと音楽でどれくらい会話できるか挑戦です。



2013年5月開催 第16回定期演奏会より

かめこ まさたか
亀子 政孝
(コントラバス)

初の東京公演が間もなく開催となります。チケットはお陰様で**完売**となりました。公演を前に、4名の団員に“公演への想い”をたずねてみました。紀尾井ホールでみなさまと素敵な時間を過ごせることを楽しみにしております。

OMURAが発足して11年。当時、男性団員は私だけでしたが、現在は若い人も増え、賑やかな団になりました。OMURAの魅力であるファミリーな雰囲気は今も昔も変わっておらず、仲間に感謝しない時はありません。

私自身が実家のある横浜から長崎に移り住んだのは20数年前。地元を離れて音楽活動を続けてきた私にとって、東京公演は、初の地元凱旋の演奏会であり、実家の両親に自分の晴れ舞台を見せるちょっとした「親孝行」でしょうか。東京での演奏に、特別な想いを感じない団員はいません。村嶋さんの音楽に対する情熱と団員たちの積極的な演奏活動、なにより長期間にわたり応援して下さる方々のサポートがあったからこそ、今回の東京公演が実現に至ったのだと思います。東京公演は一つの通過点です。この公演を経験することでOMURAはさらに向上し、新しい世界を切り開くことができると信じています。そして、OMURAの一員としてこの舞台に立てることを、心から誇りに思っています。



さいとう あきら
齊藤 享 (ヴァイオリン)



たなべ きよし
田辺 清士 (チェロ)

どうも皆さんこんにちは、チェロ奏者の田辺です。まず今回の東京公演の実現に際し、パトネージュ会員の皆様、OMURA室内合奏団の公演にご協力いただいております方々、そして演奏会にお越しただいてのお客様、応援していただいています沢山の方々に深く感謝申し上げます。

演奏場所は変わりますが、OMURAの持ち味である団結力や、いつもの公演のように本番へ向けてモチベーションを高める作業等は普段と何も変わることはありません。

東京公演の事ももちろん頭の中には入っておりますが、4月5月にも沢山演奏させていただく機会をいただいています。どの公演も同じく、また22、23日の長崎・大村公演も団員一同粉骨砕身の努力を傾注いたしまして、皆様により良い演奏をお届けしたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願い致します。

今回東京公演を開催することが出来るのは、パトネージュ会員の皆様をはじめ、本当にたくさんの方々のから、ご支援を頂いたおかげだと思います。本当にありがとうございます。

そのお力添えに恥じない演奏を目指し、私が今まで学んできた事をひとつでも多く発揮できるよう、集中して臨んでいきたいと考えています。

紀尾井ホールで演奏するのは初めての経験ですが、とても響きの良いホールだとの話を聞いているので、東京という場所のプレッシャーに負けないよう、その響きを生かした演奏を作り上げていきたいです。

なにより、迫さん、松原さんがどのような素晴らしい音楽を生み出されるのか、とてもワクワクした気持ちでいっぱいです。

東京公演を聴いて下さった方が、次は大村公演へ来て下さるよう一生懸命頑張ります!!!



まつうら ちか
松浦 知佳 (ヴァイオリン)

『君はトランペットに向いてるから大丈夫だよ。』

これは大学受験の面接時にいただいた言葉です。

結局この受験は失敗に終わったのですが、それでも諦めずに続けて来れたのは、心の中にこの言葉が残っていたからかも知れません。

あれから20年。おかげさまで演奏活動の場はクラシック音楽にとどまらず、ジャズや演歌などにも広がり、たくさんの出会いと学びをいただいています。本当に多くのご縁に恵まれて、今回20年振りに楽器を持って上京します。『はい大丈夫でした!』の感謝の気持ちと一緒に、夢のステージへ(笑)、行って参ります♪



こが あつこ
古賀 敦子 (トランペット)



紀尾井ホール (内観)

芸術監督だより

温故知新



「見えざる神の手に導かれて」というフレーズを、人の出会いに好んで使っていたのは、サントリーホールやカザルスホールの総合プロデューサーを務めた今は亡き萩元晴彦、私の昔の上司でした。OMURA室内合奏団5月定期公演の指揮者、秋山和慶氏とのめぐりあわせは、まさにその「見えざる神の手に導かれて」と言えましょう。

秋山氏との初めての出会いは1961年、なんと50余年前の事で、私は芸大を卒業してアメリカへの留学も決まっていた頃のことです。

今やご両人とも世界的指揮者、当時、桐朋学園指揮科に在籍中の秋山氏と飯守泰次郎氏の指揮、藤原歌劇団によるオペラ公演があったのです。2本立て公演で、秋山氏はラヴェル作曲「スペインの時」飯守氏は、プッチーニ作曲「修道女アンジェリカ」を担当。同級生だったお二人は、仲も良く、それぞれの練習にも顔をだしてられ、私の記憶では、秋山氏が「修道女アンジェリカ」の練習ピアノを弾かれたこともあったような、、、。私は「修道女」の一人として出演していたわけです。

近年、秋山氏が九州交響楽団の常任指揮者を退任された時、これはチャンスと、お手紙を書きました。それまでは特に交流があったわけではないのですが、何かの折に顔を合わせることがあると、覚えてくださっていたこともあり、思い切って直訴したのです。「OMURA室内合奏団を指揮していただけたら幸いです」と。なんとすぐに快諾のご返事を頂き、今回の公演が実現した次第です。世界的指揮者のタクトにOMURA室内合奏団のメンバーがどう答えてくれるでしょうか! ご期待ください。

むらしま すみこ
村嶋 寿深子



私とOMURA室内合奏団

vol. 4

まず、私は生まれも育ちも長崎県ではなく、九州在住でもありません。ただ一つの繋がりといえば、大村は両親の生まれ育った場所であり、小さい頃から一番来ていた場所です。

そんな私が、なぜOMURA室内合奏団に入れたかという、それは偶然と縁が重なったからです。10年程前、私がまだ東京芸術大学の学生だった頃、室内楽の授業でピアノトリオを組むことになり、一年間指導して下さったのが、OMURA室内合奏団初代音楽監督の迫昭嘉先生でした。その頃はまだ大村に合奏団があることも知りませんでしたし、もちろん迫先生が関わっているなんて夢にも思っていませんでした。そんなある日、レッスン終わりに先生がふと長崎の話をして、そこから合奏団のことを知り、先生が紹介して下さり入団することになりました。両親に話した時の二人の驚きと喜び、なんて不思議な縁だろうと私自身もドキドキしたあの時の気持ちは今

も鮮明に覚えています。

そしていざ合奏団に入ってから、今まで経験したことのない場所での演奏、団員は初めて会う方ばかり、大村以外はあまり知らなかった私は新しいことの連続でした。それでも村嶋さん始め、団員のみなさん、事務所の方々、皆とても温かく、気づけば毎日が楽しみと刺激の連続になりました。そしてもうひとつ、合奏団に入ってから、家族が大村に来る機会も増え、大村に住んでいる祖母もいつもイキイキしているように思っています。

合奏団は私にとってホームのような場所であり、それが私と私の家族も繋げてくれているように感じます。そんな合奏団に演奏を通して恩返ししていけたらと思います。



はらぐち あずさ
原口 梓 (チェロ)



(木管アンサンブル)のプログラムをメンバーといっしょに最終日のコンサートに向けてやりました。初日の練習が終わり、本番は大丈夫?しかし、不安をよそに、それぞれの楽器の温かい響きとエネルギーあふれる音楽が、さくらホールいっぱいに響きました。子供たちの集中力・可能性を、あらためて実感!!また、大学生の中に7年前(当時中学生)に合奏団おこなった「プラスフェスタ」の経験者がいて、参加者の中心となり演奏も裏方も活躍してくれたことは、大変嬉しいことです。

これからも、私たちの目指す“まちのオーケストラ”として、このような活動を通し、音楽の芽を1つ1つ育んでいきたいと思います。



さかぐち なおこ
坂口 直子 (クラリネット)

終業式が終わり駆けつけてくれた中高生と大学生の70名、県内各地、遠くは五島、佐賀から集まって3日間の管楽器キャンプが始まりました。それぞれに楽器に分かれてのアンサンブル、参加者全員での合奏。なかなか触れることのない室内楽



しゅうじ
修爾くん

のドイツ便り



vol. 1

皆様こんにちは。日本は大分暖かくなった頃でしょうか、こちらは朝晩まだまだ冷え込むため布団から出るのが辛い毎日を送っております。

さて、こちらドイツはデュッセルドルフですが、ヨーロッパで5番目に住みやすい街と言われており、昨年までのイタリアはパドヴァと比べるとまずその治安の良さに驚きました。そのせいか日本人がとても多いです。その数は5000人を超えとも言われ、ヨーロッパ最大の日本人街には多くの日本食レストランをはじめ、クリーニング屋、雑貨屋、本屋、レンタカーサービスの店舗などが軒を連ねており、日本語しか話さなくてもほとんど不自由なく生活できるのではないかと思います。デュッセルドルフ中央駅構内を歩けば、約50mに一人の割合で日本人とすれ違います。

続いて食生活についてです。当初私はイタリアで培った料理の技術に自信を持っており、新たに出来るであろうドイツ人の友人らに振る舞うことを楽しみにしていましたが、家のキッチン設備は使うことが出来ずその思惑は未だ叶っていません。残念でなりません。



写真はピアノの鋸野泉さんと。リハーサルでデュッセルドルフにお見えになりました。

ご支援ありがとうございます (5月8日) 法人会員数 64名(±0名) NPOは、会員皆様の会費が主な収入源です。
現在) 個人会員数 179名(-6名) 周りの方で、興味のある方がいたら、ぜひお誘い下さい。

編集後記

部屋を見渡すと、年々楽譜は増えていくばかり♪物や洋服のように断捨離とはいきません!場所は取りますが、自分の財産となるので大切にしたいと思います!しかしながら、上手に整理整頓できず苦戦中(>_<) (さあり)

今度の長崎交響楽団さんの定期演奏会でソリストの1人として出演することになりました♪緊張していますがワクワクしています^^
6月28日14時から長崎ブリックホールです!
是非足をお運びください♡ (いけっち)

自分が生まれた月だからか、緑鮮やかな5月は一年で一番好きな季節。シーハット側の大村公園も緑がとってもきれいでほっとします。
(みき)